

6. 評 価

Evaluation

【1】 外部評価

1. 外部評価委員会の開催

平成29年11月2日(木)、「弘前大学COC事業及び青森COC+事業外部評価委員会」を弘前大学大学会館にて開催した。

本委員会は、学識経験者、行政機関関係者、企業等関係者等の委員によって構成され、弘前大学が平成26年度に採択された「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」及び平成27年度に採択された「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」の取組に関して、第三者による客観的評価を行うために設置された。

委員会には、外部評価委員である山形大学地域教育文化学部長の出口毅氏、函館市企画部次長の佐藤任氏、一般財団法人青森地域社会研究所常務理事の竹内紀人氏、一般社団法人男女共同参画地域みらいねっと代表理事の小山内世喜子氏が出席し、青森県高等学校長協会会長の成田昌造氏からは書面にて意見が提出された。

佐藤学長による挨拶の後、委員長に出口氏が選出され、続いて平成28年度の弘前大学COC事業及び青森COC+事業の取組や実績について、各担当者から説明を行い、その後、各委員から、事業に関する評価や改善の提案など、忌憚のない意見があった。





2. 外部評価結果報告

弘前大学COC事業及び青森COC+事業 外部評価結果報告書

弘前大学COC事業及び青森COC+事業外部評価委員会

日 時 平成29年11月2日（木）13時30分～16時07分

場 所 弘前大学 大学会館3階 大集会室

対象年度 平成28年度

《外部評価委員》

委員長 出口 毅【山形大学 地域教育文化学部長】

委 員 佐藤 任【函館市 企画部次長】

委 員 竹内 紀人【一般財団法人青森地域社会研究所 常務理事】

委 員 成田 昌造【青森県高等学校長協会 会長】

委 員 小山内 世喜子【一般社団法人男女共同参画地域みらいねっと 代表理事】

弘前大学COC事業外部評価結果

評価項目	委員 1	委員 2	委員 3	委員 4	委員 5
実施体制	3	3	3	3	3
教育	4	4	4	4	3
研究等	3	3	3	3	3
社会貢献	4	3	3	3	3
全体評価	3	3	3	3	3

《評語》

4：計画を上回って実施している／3：計画を十分に実施している

2：計画を十分には実施していない／1：計画を実施していない

外部評価委員長からの総評

【弘前大学COC事業に関して】

平成28年度「青森ブランドの価値を創る地域人財の育成」事業において、弘前大学の教育改革に合わせて、新しい教養教育が実施され、学生の地域志向性をさらに育むことが目指された。

そのために「ローカル科目」群、「地域ゼミナール」及び「キャリア形成の基礎」を選択必修あるいは必修科目として開講するとともに、専門教育課程などでも地域志向科目を導入した。また、地域社会のリーダー育成のための「専門人財育成プログラム」開発にあたり、インターンシップの試行により、実践的かつ地域志向型のプログラムを実施した。

その結果、地域志向科目数、その履修者数、地域課題をテーマにした卒業論文数及び県内就職希望率といった教育における目標を達成する状況が醸成された。また、教育のみならず研究等における共同出願特許件数（累計）、社会貢献における社会人等の教育機会の開講数、その受講者数及び学生の地域貢献活動の参加数についても目標を達成した。以上のことから、当該年度の本事業における全体的な取組は、**計画を十分に実施している**と評価できる。その中で、とりわけ教育に対する取組については、多くの外部評価委員が高く評価しており、今後のさらなる工夫が注目される。

今後の課題として、「青森ブランド」の価値を創出するために、理工学部の学生への対応や青森ブランド価値創造研究の継続、そして学生が地域への関心と愛着や誇りを持つような取組の強化が望まれる。大学の有する教育と研究の強みを活かし、その相乗効果が社会貢献となって青森ブランドの価値を高める事業となるよう、これからの展開に期待したい。

外部評価各委員からの意見等

《弘前大学COC事業に関して》

■ 学長のリーダーシップの下、平成28年度の大学改革に合わせた教育改革がうまく機能し、COC事業の成果につながっている。特に学部と大学院における教育の充実、教育成果の地域還元などにおいて計画を上回る実績となっており、最終的な目標達成が期待される。

■ 弘前大学COC事業は、「青森ブランドの価値創造」を大きなテーマとし、平成28年度において、多彩なローカル科目や、スタディスキルを学ぶゼミナールの開講、地域課題解決型のPBLの導入、キャリア教育の推進など、学生の地域に対する関心を高めるカリキュラムが幅広く体系的に導入されていることは非常に画期的な取組であると評価しています。

科目数や履修者数も達成目標に向けて大幅に増加しているほか、学生の将来の選択肢としての県内就職希望率が年々高まっていることなど、進捗状況は順調に推移しています。また、大学の幹部職員をはじめ、地元企業、行政等の関係者向けの講演会の開催や、スタッフ研修の実施等を通じ、地域志向の意識の醸成・定着のための取組にも積極的に取り組んでいる点も高く評価しています。

この地域には、既に「青森（弘前）りんご」「白神」といった全国的に通用するブランドが存在しますが、地域ブランド化による地域産業の振興の取組は全国で数多く行われており、その中で特色を打ち出していくことは年々難しくなっています。

さらに、研究開発は中長期的な取組となるため、限られた事業期間の中で具体的な成果を生み出すことは容易なことではありませんが、青森ならではの地域資源を発掘し、学生が地域に愛着と誇りを持てるような取組を今後も継続されることを期待します。

■ 文理融合に基づく教育と研究への取り組みの相乗効果により、本業を通じた「地域貢献」がこれまで以上に広がりや深みを増していくことを、期待しております。

■ 教育について、地域志向性の涵養を柱とした充実した教育課程の開発・実施に留まらず、インターンシップの試行などの実践的なプログラムにより理論と実践が融合し、高い教育効果を得ているものと思われる。また、学生に係る種々の学習評価の手立てが講じられていることは高く評価できる。研究について、青森ブランド価値創造研究等の研究プログラムの目標達成状況については、その取組に時間を要することから、即時的な成果を求めず、時間軸の特定の時点での評価としたい。また、アントレプレナー教育への地道な取組が、将来のベンチャー企業の立ち上げやイノベーション創出に繋がることを期待したい。その継続を望む。

■ ほとんどの実施内容においても達成目標をクリアしており、3年間の積み重ねの結果と思われる。特に学生の社会貢献活動への参加者数の増加が県内就職希望率の増加と相関関係にあると思われる。また、研修全般においては、学生にとって身近な教員が地元に関する研究をしている姿を見ることで、ロールモデルとなり、地元への関心と愛着心につながると考えられる。さらなる期待を寄せるところである。社会貢献においては、女性活躍という観点からも「女性へのリカレント教育」の一環として取り組んではいかがだろうか。



文部科学省

地(知)の拠点